

令和5年度 第2回 教育課程編成委員会議事録

- 日時 令和6年2月21日(水) 14:40～16:15
- 場所 学校法人 ほっかいどう学院 くしろせんもん学校 3階 第7講義室
- 出席委員 北構 和代 (釧路市私立保育園連合会 副会長、昭和どんぐりの家保育園 園長)
戸田 竜也 (北海道教育大学釧路校 教育学部 准教授)
高橋 健一 (北海道介護福祉士会釧路支部 支部長、
道東勤医協 老人保健施設ケアコートひまわり介護長)
- 欠席委員 山本 綾子 (釧路聖母幼稚園 園長、釧路市私立幼稚園連合会理事・会計)
小野 信一 (日本福祉教育・ボランティア学習学会)
高橋 功成 (社会福祉法人釧路愛育協会 常務理事、養護老人ホーム長生園 園長、
特別養護老人ホーム武佐の里 園長、釧路地区老人福祉施設協議会 副会長)
- オブザーバー 住尾 盛 (釧路市PTA連合会 顧問、昭和中央2丁目町内会 会長)
- 出席職員 杉村 典史 (くしろせんもん学校 校長)
武藤 篤訓 (くしろせんもん学校 副校長)
氏原 陽子 (くしろせんもん学校 こども環境科 学科長)
赤神 正倫 (くしろせんもん学校 こども環境科 教員)
伊東 利恵 (くしろせんもん学校 介護環境科 教員)
長谷 由香 (くしろせんもん学校 介護環境科 教員)
若生 みゆき (くしろせんもん学校 事務主任)
- 配付資料 ○レジュメ (委員名簿・次第など)
○令和5年度 第1回 教育課程編成委員会議事録
○資料1～5
○今年度の教育課程について (両学科資料)
○令和5年度 新聞記事

1. 開会 (司会: 氏原)

2. 次第

- (1) 委員の委嘱・挨拶 (杉村)
- (2) 令和5年度 第1回 教育課程編成委員会の議事録の確認
- (3) 経過報告
 - ①学校全体に関わること
 - ②学生に関わること
 - ③報告に対する質疑応答
- (4) 今年度の教育課程と来年度の教育課程に関わって (企業連携を含めて)
 - ①報告 ・こども環境科 (氏原)
・介護環境科 (伊東)
 - ②報告に対する質疑応答
- (5) 委員の皆様から教育課程の編成についての意見交換

(6) 質疑応答

戸田委員から意見

管内の特別支援学校から、「学生が訪問体験で来てくれたことで、実践が豊かになっている」と報告を受けた。

北構委員から意見

学生にとって、実習前1週間の授業がとても生きたようで、意識の違いや印象の違いを感じた。

支援が必要な子どもが増加しているが、大きくなってから躓いてしまうことがあるかもしれない。保育園での関わりはとても重要だと感じている。

学校側回答 (氏原)

実習前1週間の授業は、継続して大事にしていきたいと思う。

(長谷)

支援が必要な学生の保護者の中には、(支援が必要だということ)を受け入れられない様子の方もいる。どうアプローチして伝えていくか課題。また、実習や就職に送り出す基準も悩む。

高橋健一委員より意見

介護環境科の次年度入学予定者が一桁かもしれないということがショック。

実習生を受け入れる際、事前に学生情報などの説明をもらえたことでスムーズな対応ができた。『できることを最大限に延ばす』指導で、実習を終えてもらえたら良い。社会人入学生は、「社会人経験があるからこれくらいはできるはず」とハードルを上げてしまう傾向にある。厳しい評価になってしまうことを懸念していた。指導者としても学びの場とさせてもらいたい。

学校側回答 (校長)

高卒生だけを見ると減少はしていない。委託生については、入学枠を増加してもらうことが希望。

(伊東)

実習生の育成について、今後ご協力を頂きたい。

(長谷)

厳しく評価して頂くことで、学生の振り返りにつながると思う。

住尾委員より意見

専門学校の子は、卒業までの目標があり、モチベーションを高め合いながら学生生活を送っているという印象。モチベーションがあまり高くない学生のフォローなど大変だと思う。学校として、支援が必要な学生を受け入れていくための体制の整備や職員間での共有などどのように捉えているのか。

学校側回答 (校長)

学校として具体的な体制などは現在取り組めていない状況。今後は覚悟を持ち取り組むことが必要かもしれない。

戸田委員より意見

特別支援対象の子ども、実際には文部省のデータより多いかもしれないという感覚がある。早い段階で気づけるかが課題。授業の中で気づきを促すような動きを取り入れたりすることもある。自分の苦手なことを理解している学生に対し、どうしたらうまくできるだろうという内容の講座を開いた。また、支援施設につなげるパターンもある。対人援助職の魅力アピールは、関係機関全体で一緒に考えたい。ただ、違う職種の方が合っているかもしれないと感じたときは、学生に教員以外の仕事を紹介することもある。

学校側回答 (氏原)

他養成校も似た悩みを持っている様子。

(伊東)

人の役に立つ仕事を希望しているが、専門的な勉強は苦手な学生。できるようにするにはどうしたらいいのか悩む反面、本人が後々辛くなるのではないかと考える。

戸田委員より意見

現場に出て、職場で大変だろうなとイメージできる学生に、本人の気持ちは大切にしつつ、こちらのメッセージも伝えていく。

北構委員より意見

多様性についてどのように理解していくべきか考える。自身も変化することが必要だと思った。学校祭は、学生がいきいきしていて良い取り組みだと思った。継続して欲しい。

高橋健一委員より意見・質問

職場内でも段階的に人材育成していく必要があるので、学習できる体制を考えたいと思う。感染症について、実習生へどう対応したらよいか？

学校側回答（長谷）

実習先施設の判断に合わせていく方針。学校の対策としては、体調管理など今までと変わらず対応していく。

(7) 意見交換 特になし

(8) 質疑応答 特になし

(9) その他

閉会（司会：氏原）

以上
(記録：若生)